

## 「子どもの居場所づくりに必要なこと」 ～小学生から寺子屋に来ている大学生卒業レポート～

1. 目的 本研究は、トー横やグリ下など若者の居場所の問題がニュースになっている現代において、子どもたちの居場所づくりを行っているNPOの取り組みがどのように子どもたちの支援につながっているのか、子どもの居場所づくりに何が必要かを検討することを目的とする。

### 2. 先行研究 (略)、背景

居場所の1つの湘南まぜこぜ計画とは。目的：すべての子どもたちが、自分の意思で未来を選択できる社会を目的に2016年から寺子屋ハウスとして活動を始める。

どんな団体か。毎週金曜日に公園でこどもの居場所として行われていて、地域貢献で地域の幼稚園との協力で新たな居場所を開設している。

### 【筆者の寺子屋での経験】

筆者は実際に、小学生から中学生にかけて利用する側として通い、高校生から今までボランティアとして子どもたちと一緒に鬼ごっこやいろんなお話など子どもたちと触れ合ってきた。

筆者自身小、中学校でのいじめの経験があり学校に行くことが好きではなかった。また教室にいても周りからの声などで居場所が無いなど感じて過ごしていた。その中で寺子屋では行けばいろんな人がいて、相談事などさまざまな話をしている人がいたからこそ寺子屋を運営している人たちへ自分の学校での出来事や自分自身に起こったことなどを話すことができた。親身になって聞いてくれる人がいなければ私が相談しようとしなかっただろうと考えている。

高校生になってからも1ヶ月に1回は行くようにしていて、会ったとき「最近の調子は？」など小学生のころからずっと知ってくれているスタッフの人たちが気にかけてくれて、自分のことを家以外で気にかけてくれる存在がいるというのも大きく筆者の中では通う理由としてあった。

いろんな話を聞いてもらっているうえで、高校での様子などたくさん話を聞いてもらってきたなと感じている。

上記のような繋がりがあることで話を聞いてもらえる、話していいんだと気持ち的な支えにさせてもらっていたし今実際に来てくれている子どもたちにもそういう風に思ってもらいたいと考えている。

3. 実施 (方法) 子どもの居場所づくりに取り組んでいるNPO法人湘南まぜこぜ計画に参加している小学生1名 (以下Aさんと表記) を対象とし、参加したきっかけや参加している理由などを、インタビューを用いて調査する。そのうえで小学校高学年から同じ団体に通っていた筆者の体験とあわせて、居場所づくりにおいて重要なことについて考察する。

(日時) 2025年12月26日 (結果) 考察Aさんは、なぜ参加しているのかという質問に対し、最初は「お菓子が安いから」と言っていたが、より深く聞いていくにつれて、来た方が楽しいと感じられるし、来た方がいいかなと思っていると話していた。家と比較した寺子屋の印象についてAちゃんは、「家にも一人とかお姉ちゃん(と二人だけ)だから、そうなんか、子供達と一緒にいると「わーっ」となるから」と語っており、ほかの子ども達と一緒にいるとにぎやかな空間となってその場を楽しんでいる様子がうかがえる。また、Aさんが参加する理由として、家のことや学校での出来事を話すことの話しやすさや、学校終わりでも通いやすさがあると話していた。

### 4. まとめ

インタビューと筆者の体験から、居場所づくりにおいて大切なことは何か考察を行った。まず、現地で販売している駄菓子が安いことは、子どもが参加するための大きな魅力となっており、子どもたちが通うようになるきっかけとして機能していることがうかがえた。そのうえで、同学年の友達がいる楽しい空間であることと、親でも教師でもない大人が、自分の話を否定せずに聞いてくれることが、子どもにとって安心して通える空間づくりにつながっていることがわかった。